

【学会発表レポート】

「第 12 回地域包括ケア推進病棟研究大会」で当院のスタッフが症例発表を行いました！

こんにちは！リハビリテーション課のKです。

神戸で開催された「第 12 回地域包括ケア推進病棟研究大会」に参加し、
日頃の成果をまとめた症例発表を行ってきましたので、その様子をご報告
します！



■ 学会で感じた「地域で支え合うこと」の大切さ

今回の開催地である神戸は、30 年前の阪神・淡路大震災の経験から、

地域全体で助け合う「お節介やき」の文化が根付いている街です。

シンポジウムでは、社会的な課題を抱える難しい患者さんに対して、

病院だけでなく、ケアマネジャーさん、市職員さん、弁護士さんなど、院外の

さまざまな専門職が一丸となってチームで問題解決にあたっている事例や、

施設と病院が連携を強化してスムーズな入退院を支援している取り組みなど、

大変勉強になる発表がたくさんありました。

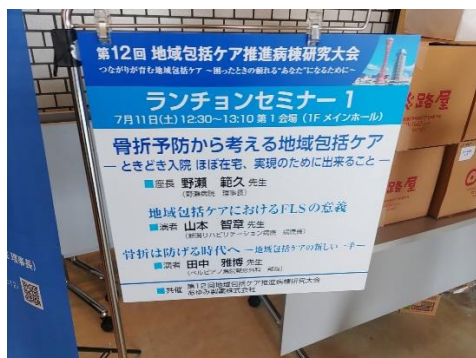
「地域包括ケアシステム」を円滑に回すために何が必要なのか、改めて深く
考えさせられる貴重な機会となりました。



■ 多くの気づきと、グループ病院との「横の繋がり」

症例発表のブースでは、新しいリハビリのアプローチ方法や、既存の取り組みを効率化して患者さんの満足度向上に繋げた報告などがあり、より良いリハビリを提供するためのたくさんのヒントや気づきを得ることができました。

また、会場には聖隷グループの他の病院職員も参加しており、他院での取り組みや抱えている問題点などを共有し合うなど、とても有意義な「横の繋がり」を作ることができました。



■ ドキドキの症例発表を終えて

自身の発表については、事前の準備をしっかりと重ねて臨んだため、ある程度スムーズに進めることができました！本番は少し緊張してしまい、時間配分に焦る場面もありましたが、会場からはいくつか質問もいただき、今後のリハビリを様々な視点で考えていくことの重要性を実感しました。

■ 今回の経験を、これからの地域医療へ

今回この研究会に参加したことで、日々の実践を発表することの意義や、より広い視野でリハビリを提供することの大切さ、そして医療以外にも自分たちにできることや「これから挑戦したいこと」など、本当に多くの発見がありました。

この貴重な経験と学びをしっかりと現場に持ち帰り、地域の皆様へより良いリハビリサービスを提供できるよう、これからもスタッフ一丸となって努めてまいります！

